

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人 愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200107-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200107-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成27年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設当初から食材に関してはできるだけ地元の業者に肉や魚、米を配達してもらい、ユニットごとに毎食職員の手作りで食事を提供しています。調理をしている時の音やにおいがもうすぐ食事の時間という事を理解したり、食欲をそそるのではないかと考えています。  
音楽療法、生け花、手芸、お茶など利用者が楽しめる活動を提供しています。先生は利用者の家族や地域の方をお願いしています。保育園児との交流の機会を確保し、一緒にふれあい遊びをしています。また、季節の行事、花見や紅葉狩り以外にも気候の良い時にはドライブや散歩、買い物など出掛けています。  
玄関やユニットには手作りの作品を飾って家庭的な雰囲気を感ぜてもらえるようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成18年に設立時、当時の先代理事長は儒教の教え“五徳”を理念に掲げた。この法人は保育園経営から高齢者介護運営に加え、児童と高齢者のケア統合を目指してきた。毎日のように園児がホームを訪問して、高齢者とゲームをしたり、歌を歌う等して心の交流がずっと続いているのがこのホームの最大の特長と言える。そして、利用者と職員が一体となって笑顔と優しさに加え、楽しい生活ぶりが最高の雰囲気を醸し出している事だった。平成26年度の目標達成計画に「利用者の思いに沿ったケアを目指し、利用者の状態の変化に気付いた内容の記録をして、ケアマネージメントに活かす」ことを職員全員が共有化してきた成果の表われであったと思う。設立以来、職員の手でこの地で育った惣菜を主体に使うオープンキッチンで調理している心のこもった料理を皆で食べる時間が一番の楽しみである。利用者一人ひとりの表情や言葉から幸せが読み取れた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げる理念を基にして、年間の目標を立てて職員全員が理解して実践できるようにしている	事業所の理念に沿い、利用者の気持ちを尊重して、楽しく生活してもらうよう支援をしている。外部評価を機に、新たな年度目標を立てて取り組むことにしている。職員の異動は少なく、協力体制ができている。	開設から時間も経つことから、前理事長の掲げた理念である「五徳」について職員間でよく話し合い、時に初心を振り返ってみて、今後共、心のケアの真髓を求めていってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミステーションの掃除当番を年2回くらい行っている。食材は近所のスーパーで買い物をしている。季節の良い時には近隣を散歩し、挨拶を交わしている	住民組織は希薄だが、法人の各種事業所が集まっている地域で、デイサービスや特養などの利用者や保育園児との交流を行っている。中でも園児の来訪は利用者・園児双方がとても喜び、活力を生んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然の来訪者の相談や見学に快く対応できるようにしている。必要に応じて支援センターにつなげるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加してくれている地域の民生委員に地域の状況を聞いたり、近隣の病院の地域連携室の室長や他グループホームの管理者とも情報交換して、必要と思ったことは職員と検討してサービスに活かすようにしている	市職員・地域包括・民生委員・他ホーム等様々な人が出席して開催している。ホームの状況報告を行うほか、防犯や避難についての情報や外出先の提案・勉強会の案内などをもらって、運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっているので事業所の活動を報告したり、わからないことを聞いたりしている。相談事業の相談員も月に一度来訪があるので事業所で取り組んでいる事など話している	地域包括や市職員には運営推進会議に参加してもらい、状況報告をしたり情報をもらったりしている。市の介護相談員が毎月来訪し、意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関もユニットへの出入り口も施錠はしていない。夜間転倒の危険がある方も行動が把握できるよう職員同士話し合い、布団に鈴を付けさせていただきすぐ対応できるようにしている。月に一度の全体会議の時に、日常のケアの中で身体拘束に当たらないかなどの確認をしている	利用者は自由に動け、職員は危険が無いよう利用者の動きに常に配慮をしている。帰宅願望者にも拘束ではなくホームを楽しい場所とすることで、心を和らげる努力をしている。安全対策として、玄関のチャイムや防犯カメラを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の全体会議の時に、日常のケアの中でこの行為は虐待に当たらないかなどの確認をしている 外部での研修には積極的に参加し、内部研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が2名おられるので、こういうものという理解は出来ており、内部研修も行い理解を深めている 必要性があればご家族に話をするようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時や内容の改定があるときには家族にわかりやすい説明ができるように努めている 退居の場合も何度もご家族と話し合っている 改定等は新しい重説で説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞いたり、玄関にも意見箱を設置している 介護保険課の相談事業も受けているので、意見が聞けたら反映していきたい 苦情処理担当者を設け、重説でも案内している	家族には便りを送って利用者の状況を報告したり、面会時に話をしたりして意見を聞いている。利用者や家族の高齢化、また入居の長期化もあり意見は減っているが、ホームは利用者と家族の関係維持に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は代表者に毎月の勤務表を提出し、職員個々の実績や勤務状況、または本人の要望をその都度伝えている 日頃の勤務状況を見ながら必要を感じたら個人面接を行っている	管理者やリーダーに長年大きな異動がなく、職員間の協力体制ができています。利用者を担当制にしたり、行事なども職員がそれぞれ担当しており、連絡帳やユニット会議で、自分の意見を述べる事ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境等によりその時に働きやすい勤務状況になれるように配慮している 向上心のある職員には実績を積んで資格をとることをすすめ、条件も考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験、向上心等にあわせて、研修や資格取得について情報提供したり、勤務状況を配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会から研修の情報があればできるだけ参加するようにしている また地域の医療と福祉の交流会にも毎回参加して他グループホームの参加者と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面接を行い、共同生活に対応できるか判断している。また家族から在宅生活の様子なども聞き取りはするが、入居してからは出来るだけ本人のペースで生活してもらうようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談から、入居まで何度か家族と面会する機会を設けている。入居後も面会時に要望等聞いて職員間で共有するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時点で緊急性があるかないか見極め、情報提供したり、支援センターに繋ぐなどしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、食事作りや準備等出来ることを職員と一緒に手伝ってもらっている。業務優先にならないように利用者のペースに合わせて行うように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況によって可能な方は病院受診、美容院や自宅への外出、外食など家族と共にしてもらっている。また、面会に来られた時、衣替えや居室の整理などを一緒にされる家族もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、かかりつけの病院への受診を続けてもらっている。年末には家族等馴染みの方に年賀状を書いて送っている。面会時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮している	まだ元気な利用者には家族や親せきの訪問もよくある。しかし、長期にわたる利用者も多く、外部の人よりも利用者同士や職員との付き合いが馴染みとなり、ホーム内でよく分かり合える関係を作り上げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方やコミュニケーションが取りづらい方は仲介に入り、良い関係が築けるように努めている。利用者同士合う合わないがあるので席も考慮して穏やかな生活が送れるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養等に転居される場合には情報提供を行っている。退居後も家族がボランティアで来てくれる方もいるが、関係を続けるのはまれである地域の中で家族と会う事もあるのでその後の様子を尋ねたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人一人の思いを聞くようにし、可能なことは実現できるように努めている 意思疎通が困難な利用者も増えてきたが出来るだけ本人の言葉で聞くようにしている	職員は何をしている時でも常に利用者の言動に配慮し、気持ちを受け取る努力をしている。会話のできない人もいるが、長年の付き合いの経験を生かし、本人の表情などから、しっかり思いを受け止める努力をしている。	各場面での一瞬一瞬の思いを受け取ることではできても、心の奥底を探るのは難しい。経歴や会話の中から、本人の望む「生きがい」を見つけてあげて、介護計画に盛り込んでいくことを続けていってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントし、情報を職員間で共有するようにしている。入居後は日々の生活の中で得た情報やご家族との会話の中で聞いたことなども記録に残すようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りをする中で気づいたことがあれば記録に残している。急を要する場合はリーダーや管理者に報告している。いつもと違う様子に気づけるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の会議の中でカンファレンス、モニタリングを行い、現状の把握・新たなニーズがないか等を職員全員で話し合いをし、介護計画を作成するようにしている	家族や利用者の意向を聞いた上で、カンファレンス・モニタリングは職員全員で行っている。利用者を担当している職員が中心に、現状把握や問題を探り、その後ケアマネを中心に介護計画を作成している。	利用者が述べた思いや希望から生きがいを実現するために必要な、身体面・精神面の具体的支援を考えて、一歩ずつ進めていきたい。ケア記録をモニタリング・計画作成に生かすように心掛け、職員のモチベーションを高めたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は当日の勤務者が行っているが、モニタリングは担当者が行い会議の中で職員の意見も聞きながら行っている。カンファレンスも職員全員で話し合い、ケアの見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によって受診等家族が困難な場合には事業所で対応している。本人の個別の買い物も原則家族に依頼するが、事業所が代行したり、本人と一緒に出かけたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族や身内の方に生け花や手芸を教わって、地域の方には保育園の子供達と一緒にお茶を教わってもらっている。活動に参加することで楽しく過ごすことができている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は基本的には家族に対応してもらっている。受診する科によっては職員も同行し日々の状態を伝えている。家族対応ができない場合は、職員が付き添ったり、往診を利用している	掛かりつけ医への受診は家族の対応を基本にしているが、高齢化もあり、往診や職員対応による受診が増えている。特に精神科受診は職員が付き添い、密に連絡を取り合っている。訪問看護も週1回利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間の様子や変化を記録にまとめ、訪問看護師に相談し助言をもらっている。必要な場合は医療機関を受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、依頼があった場合には情報提供を行っている。入院中には様子を見に行ったり、家族から状態を聞くようにしている。退院前には病院の相談員から情報を聞き退院後スムーズに当施設での生活に戻れるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設では終末期対応ができないことを説明し同意を交わしている。重度化した時は家族と話をする機会を設け、受け入れ先など今後に向けての話をしている	ホームでは終末期対応ができないため、重度化したときには家族と話し合い、今後の方針を決める。口から食事を摂れなくなるまでできるだけ対応をするが、医師や家族と相談の後、入院や特養などへの移動となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先・既往歴・服薬説明書をセットしたファイル、職員連絡網、対応マニュアルを準備している。看護師や訪問看護師に対応の仕方のアドバイスを受けている。またヒヤリハットの検討を会議の中で職員全員で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。また地震・津波を想定した避難訓練を法人全体で行っている。避難訓練は計画を立て、利用者も一緒に参加している。結果、反省、考察し記録に残している	火災想定での避難訓練は、利用者も参加してホーム独自に年2回実施している。また法人全体でも年2回実施している。津波想定でも車を使用して避難訓練を実施している。運営推進会議でも話題に取り上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ聞き取りやすく分かりやすい言葉で声かけするようにしている。利用者の配席や入浴順、排泄時の誘導は本人の思いを考慮し対応するようにしている。利用者のことは〇〇さんと呼んでいる	一人ひとりの性格に合わせて、話の内容や声かけの仕方を考えている。また利用者が頑張ったことに感謝状で称えている。入浴中での話、排泄時の声かけや対応の仕方、その人らしい服装などに、気を遣っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中やその時の表情を見ながら本人の思いや希望を汲み取るように声かけしている。その中で「〇〇に行きたい」「〇〇を食べたい」など訴えがあった時には出来るだけ実現できるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティーへの参加を促したり、散歩や外出の声かけを行うが、無理強いせず基本的には本人のしたいように過ごしてもらっている。日中居室で横になる時間ばかりにならないように工夫している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容に来てもらい、好みに応じた散髪を行っている。化粧品を買ってきてほしいと言う利用者の希望にも対応している。外出時はお化粧をしてもらったり、服と一緒に選んでもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はユニットごとに職員が手作りしている。誕生日には好きな物を聞いて外食に行ったり、職員が作ったりしている。手伝える利用者にはテーブル拭きやお盆拭き、野菜の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらっている	利用者もできることを手伝つて手作りする料理は好評で、一方のユニットでは普通食を完食していた。重度者の多いユニットでは、刻み方など調理法を一人ひとりに合わせて作り、最後まで自分自身で食べている姿を見た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回チェックし記録に残している。水分は1日1000ccを目標にしている。必要に応じてトミ粉を使用したり、味に変化をつけたり、こまめに提供したり、利用者の状態に合わせて水分摂取できるよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。声かけだけではできない方には付き添って動作の指示をしたり、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯洗浄剤に浸けるようにしている。必要時は訪問歯科の依頼を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方も介助が必要な方もチェック表に排泄の時間を記録している。介助が必要な方は排泄パターンや間隔を見てトイレ誘導している。またソワソワしたり、徘徊し始める等利用者からのサインも見逃さないようにしている	自立の人、声掛けする人、誘導する人などそれぞれだが、全員トイレで排泄している。利用者の様子に常に気を配り、サインを捉えて誘導したり、自立の人では事後確認をし、記録をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にはヨーグルトや牛乳、バナナ等を提供している。できる方には体操をしてもらっている。排便の確認・記録をし、間隔が空いているようなら下剤の調整を行っている。また、慢性的な便秘の場合は主治医に相談し薬の調節をってもらうこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に3回を目安に入浴を行っている。時間や声かけのタイミングを工夫している。ゆっくりと湯船に浸かりたい利用者にはゆっくりと入ってもらっている	週3回を基本に入浴している。中には拒否する人もあるが、声かけに工夫をするなどして、少なくとも週1回以上は入浴できている。色々な話をしながらゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は特に決まっていない。テレビを見てから休む方、早朝に起きてきてゆっくりされる方等利用者のペースである。夜間居室で一人になると不安になる方にはゆっくり話を聞いたり、短時間で出来る手伝いをしてもらった後、休んでもらうこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時にはノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。服薬ミスが起こらないように分割された薬ケースを使用し、服薬前には日付け、名前を口頭で読み上げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法、生け花教室、手芸教室、お茶の時間を定期的に設け参加を促している。また、同法人の事業所で行うアクティビティにも、利用者一人一人の得意な分野のものに参加してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には施設周辺に散歩に出かけたり、近くのスーパーや公園等へ車でのお出かけを行っている。お花見や紅葉狩り等季節ならではの外出はアンケートをとり、希望の場所に出かけられるようにしている	重度化してきたこともあり、2～3人ずつに分けて外出している。買い物や紅葉狩り・花見などのほか、外食などに出かけている。外出希望のアンケートは3か所程度の案を提供し、希望を聞いている。近所の法人他施設に出かけたりする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居された時点で金銭管理ができない方が殆どである。自分で買いたいものを選んでもらい、預り金から支払うことはしている。財布を持っていることで安心する利用者は居室に財布を置いている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいという依頼があれば対応している。日常の手紙のやり取りはみられない。年末には年賀状を書き家族や馴染みの人に送る方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やユニット内には利用者の作品や季節の飾りつけをし季節感が感じられる温かい雰囲気づくりをしている。各ユニットごとに食事の支度をする音や匂いがあり、当り前の生活を感じてもらえるようにしている。室温・湿度管理を行っている	リビングルームに利用者の作品や手芸教室の作品を飾り、利用者を称えたり、暖かい雰囲気を作ったりしている。両ユニットをつなぐウッドデッキは外部での空気に接するに十分な広さと設備が整っており、合同行事や日光浴や歌会をしたりしてユニット間の交流をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを置いてゆったりと過ごせる空間をつくっている。バリアフリーでフロアからウッドデッキに続いているので、外に出て日光浴をしながらのんびりと過ごす時間が持てる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室のドアには手作りの表札を掲げ、自分の部屋だと確認できるよう目印にしている。ベッドやタンスは利用者の要望に合わせて使いやすい配置にしている。壁には写真や手作りカード、利用者の作品を飾り家族にも見ていただけている	家族に衣類などを持参してもらおうが、利用者の好みや安全に配慮して、職員が居室作りをしている。作品や写真を多く掲示している部屋もあるが、物を極力減らしている部屋もある。生け花教室の生花のある部屋も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには手作りの表札を掲げている。移動に援助が必要な方は布団に鈴を付けたたり、歩行器に付けたたりして、動いているのが分かるようにしている。また、「ノックをしてください」や「トイレ」等貼り紙をして分かりやすくしている		